

小野修一の経営お役立ちコラム 第8回

●財務諸表で最も注目すべきは営業利益

経営状況を数字で把握し的確な対応を行うことは、企業経営の基本です。そのために、月次試算表を早期に（遅くとも翌月の半ばまでには）出し、その内容を分析し、必要な手を速やかに打つ、経営者・管理者として不可欠の取組みです。

では、月次試算表を分析するとき、最も注目しなければならない経営指標は何でしょうか？損益計算書（PL）では、売上高、粗利益額（率）、営業利益額（率）など、貸借対照表では、現金預金、売掛金、買掛金、棚卸資産額など、どれも重要な経営指標です。その中でも、私は、あえて営業利益額（率）に注目することをお奨めします。

営業利益は売上から原価と販管費を引いた金額、つまり、企業がビジネス活動を行った結果の利益、俗っぽい言葉で言うと儲けです。さらに、営業利益額（率）の推移を見ていくことをお奨めします。売上金額が大きくても（伸びていても）、その売上を上げるために多くの原価や営業経費がかかっていれば（売上の伸びよりも原価・経費の伸びが大きければ）、営業利益額（率）は伸びません。売上は伸びているのに営業利益赤字に転落してしまった例は多くあります。

こうした事態を招いてはいけません。営業利益額（率）の推移に注目し、営業利益の基になる原価、販管費の内容をチェックし対策を講じていくことが、健全な財務体質を構築する第一歩です。